

## 茨城県那珂湊沖から得られた北限記録となるウミテングの稚魚

尾山大知<sup>1,2</sup>・藍澤正宏<sup>3</sup>

## Author &amp; Article Info

<sup>1</sup> 東京大学教養学部 (東京)

d-oyama@g.ecc.u-tokyo.ac.jp (corresponding author)

<sup>2</sup> 千葉県立中央博物館 (千葉市)<sup>3</sup> 東京大学総合研究博物館 (東京)

Received 17 December 2024

Revised 23 December 2024

Accepted 23 December 2024

Published 25 December 2024

DOI 10.34583/ichthy.50.0\_56

Daichi Oyama and Masahiro Aizawa. 2024. Northernmost record of the seamoth, *Eurypegasus draconis*, based on a juvenile specimen from off Nakaminato, Ibaraki Prefecture, Japan. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 50: 56–58.

## Abstract

In July 1992, a juvenile specimen of the seamoth *Eurypegasus draconis* (Linnaeus, 1766) (Pegasidae) was collected from off Nakaminato, Ibaraki Prefecture, eastern Japan. The specimen was characterized by eight tail rings; spine present on dorsal surface; and dorsal surface of body undulating, with a depression immediately behind eyes. *Eurypegasus draconis* is widely distributed in the Indo-Pacific from Madagascar to French Polynesia and has previously been recorded from Sagami Bay and southward in Japan. Thus, the present specimen represents not only the first record from Ibaraki Prefecture, but also the northernmost record of the species. The species is usually found on sandy or muddy bottoms of shallow waters; however, the present specimen was collected from seaweeds floating on the seawater surface offshore. It is possible that juveniles of *E. draconis* might attach to seaweed and disperse, but further observations need to be accumulated.

ウミテング科 Pegasidae Bonaparte, 1831 は主に沿岸浅所の砂泥底に生息する小型魚類であり、本邦からはウミテング属 *Eurypegasus* Bleeker, 1863 のウミテング *E. draconis* (Linnaeus, 1766) およびテングノオトシゴ属 *Pegasus* Linnaeus, 1758 のテングノオトシゴ *P. laternarius* Cuvier, 1816 とヤリテング *P. volitans* Linnaeus, 1758 の3種が報告されている (瀬能, 2013)。このうち、ウミテングはインド・太平洋の広域に分布し、国内では相模湾以南から記録されている (瀬能, 2013)。

東京大学総合研究博物館動物部門に所蔵される魚類標

本資料の整理過程で、1992年に茨城県那珂湊沖で採集されたウミテングの稚魚1標本が確認された。本種の国内における記録状況は上述のとおりであり、本標本は本種の茨城県における初記録であるだけでなく、北限記録を更新するものであるため、茨城県近海の魚類相に関する基礎的知見の蓄積を目的としてここに報告する。加えて、本種の稚魚生態に関する若干の知見が得られたため、採集状況も併せて報告する。

## 材料と方法

標本の計数計測方法は Palsson and Pietsch (1989) に従った。各部の和文での名称は三井・瀬能 (2020) に従ったが、rostrum (Palsson and Pietsch, 1989) については本稿では「吻部」と表記した。計測はデジタルノギスを用いて 0.01 mm の精度で行い、小数第2位を四捨五入した。標本の観察や計数計測は必要に応じて双眼実体顕微鏡下で行った。色彩の表記は財団法人日本色彩研究所 (1981) の系統色名に準拠した。標準体長 (standard length) は体長または SL と略記した。本研究で使用した標本は、東京大学総合研究博物館動物部門 (ZUMT) に収蔵されている。

*Eurypegasus draconis* (Linnaeus, 1766)

## ウミテング

(Fig. 1; Table 1)

**標本** ZUMT 68998, 稚魚, 8.1 mm SL, 茨城県那珂湊沖, 1992年7月, 流れ藻より採集, 鴨川 充 (茨城県立太田第一高等学校) 寄贈。

**記載** 観察標本の計数計測値を Table 1 に示す。頭部および躯幹部は著しく縦扁し、複数の硬い骨板で覆われ、鱗を被らない。躯幹部の背面および腹面の各骨板の境界は隆起し、腹面より背面においてこの隆起が顕著で、凹凸がある。口は下位で、口裂は小さく、斜行する。吻部は殆ど発達せず、非常に短い。眼は側面に位置する。眼の直後の背面には凹みがあるが顕著ではない。尾部は細長くやや縦扁し、8個の骨質の尾輪からなる。最終尾輪の背面には棘が

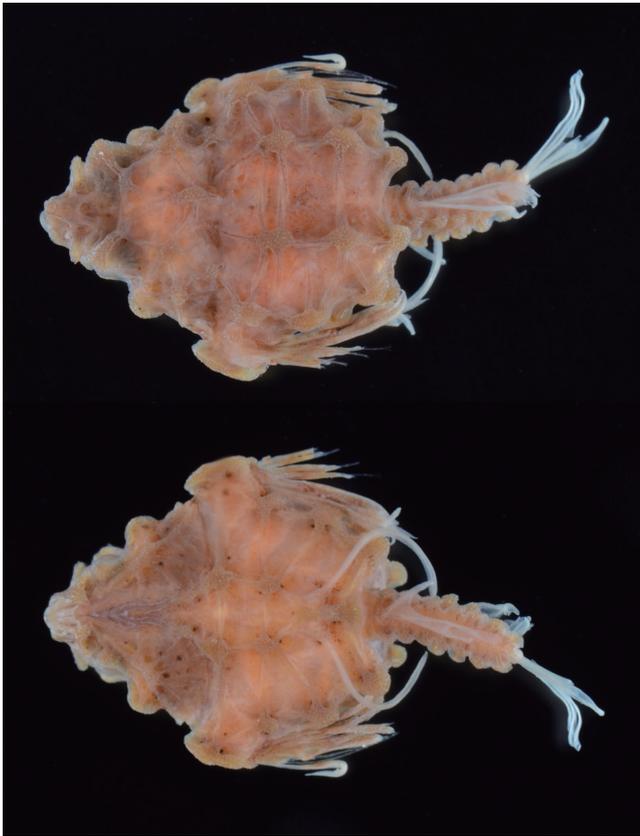


Fig. 1. Dorsal (top) and ventral (bottom) views of preserved specimen of *Eurypegasus draconis* (ZUMT68998, juvenile, 8.1 mm SL, off Nakaminato, Ibaraki Pref., Japan). Photos by D. Oyama.

ある。背鰭および臀鰭はほぼ対在し、その起部はいずれも第2尾輪に位置する。胸鰭は体側面に位置し、水平方向に扇形に広がる。腹鰭は腹位で、1棘のみからなり、鞭状で細長い。腹鰭は左右に大きく広がったのち、後方になるにつれ収束し、先端は第3尾輪の付近で接近する。標本の保存状態が悪く、尾鰭の形状は不明。

**固定後の色彩** 体は一様にあざい黄みのブラウンを呈し、目立つ斑紋はない。腹面の一部には20個程度の小黒点が散在する。

**分布** ウミテングはマダスカルから仏領ポリネシアにかけての紅海を含むインド・太平洋の熱帯・亜熱帯域に広く分布するが、ハワイ諸島には同属他種の *E. papilio* (Gilbert, 1905) が分布し、本種は分布しない (Palsson and Pietsch, 1989; 瀬能, 2013)。日本国内では、伊豆諸島 (伊豆大島, 八丈島), 小笠原諸島, 相模湾から九州南部にかけての太平洋沿岸, 山口県および福岡県の日本海沿岸, 瀬戸内海, 長崎県および鹿児島県の東シナ海沿岸, 大隅諸島以南の琉球列島から記録されていた (Palsson and Pietsch, 1989; 萩原・木村, 2006; Senou et al., 2006; 吉野・瀬能, 2008; 河野ほか, 2011, 2015; 瀬能, 2013, 2020; 千葉, 2013; 大河ほか, 2014; 伊東ほか, 2016; Koeda et al., 2016; Motomura and Harazaki, 2017; Iwatsuki et al., 2017; 吉郷, 2018; Nakae et al., 2018; 稲葉, 2018,

2019; 三木, 2019, 2021; Motomura and Uehara, 2020; Jeong and Motomura, 2021; 田代, 2022; 萩原, 2022; 村瀬ほか, 2023; Motomura, 2023; 本田ほか, 2024)。本研究により茨城県那珂湊沖から新たに記録された。

**備考** 観察標本は尾輪数が8であること、体背面は起伏が大きく、眼の直後に深い凹みがあること、最終尾輪の背面に棘があることなどから、Palsson and Pietsch (1989), 瀬能 (2013), および木村 (2014) が示すウミテング *Eurypegasus draconis* の標徴とよく一致したため本種と同定した。

本種の分布記録は上述の通りであり、本種のこれまでの分布北限は相模湾であった。したがって、茨城県那珂湊沖から得られた観察標本は本種の茨城県からの初記録であるだけでなく、北限記録を更新する。

本種は最大体長77 mmまで成長する (Palsson and Pietsch, 1989; 瀬能, 2013)。本研究の観察標本は体サイズ (8.1 mm SL) に加えて、吻部など体各部の形態が未発達であることから稚魚であると判断した。

なお、本種は底生魚類であり、浅海砂泥底の底層で観察される事例が多いとされる (Palsson and Pietsch, 1989; 吉野・瀬能, 2008; 瀬能, 2013)。また、Palsson and Pietsch (1989) によれば、本種はイワツタ属 *Caulerpa* J. V. Lamouroux, 1809 の藻場にも生息するほか、ウミシダ類と同所で確認されることがある。しかしながら、本研究の観察標本は沖合表層で流れ藻から採集されており、これまでに本種が表層で採集された報告はないため、本種が稚魚期に流れ藻に付随して分散する生態を有する可能性がある。本種の稚魚の生息環境や生態についてはこれまでに報告がな

Table 1. Counts and measurements of *Eurypegasus draconis* from off Nakaminato, Ibaraki Pref., Japan.

	ZUMT 68998 Juvenile
Standard length (SL; mm)	8.1
Counts	
Dorsolateral plates	3
Ventrolateral plates	4
Tail rings	8
Pectoral-fin rays	9
Dorsal-fin rays	5
Anal-fin rays	5
Caudal-fin rays	8
Measurements as % of SL	
Body depth	35.3
Interpectoral width	54.9
Rostrum length	7.9
Maximum rostrum width	16.3
Orbit diameter	9.0
Interorbital width	23.2
Carapace length	66.8
Carapace width	66.7
Tail length	29.3

いことから、本種の稚魚生態の解明のためには、今後さらなる観察事例の蓄積が望まれる。

## 謝 辞

上島 励博士（東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻生物学講座）と和田英敏博士（神奈川県立生命の星・地球博物館）をはじめとする東京大学総合研究博物館動物部門の皆様には標本の観察に協力いただいた。是枝伶旺氏（鹿児島大学大学院連合農学研究科）には文献収集に協力いただいた。Ichthy 担当編集委員の中村潤平氏と1名の匿名査読者には原稿の改訂に際して有意義なご意見をいただいた。ここに記して感謝申し上げる。

## 引用文献

- 千葉 悟. 2013. ウミテング, p. 31. 本村浩之・出羽慎一・古田和彦・松浦啓一（編）鹿児島県三島村 硫黄島と竹島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島・国立科学博物館, つくば. [URL](#)
- 萩原清司. 2022. 横須賀市自然・人文博物館所蔵魚類資料目録 (V) 横須賀市自然・人文博物館及び相模湾海洋生物研究会収集奄美群島産魚類資料目録. 横須賀市博物館資料集, 46: 1–127, pls. 1–4.
- 萩原清司・木村喜芳. 2006. 房総半島館山湾波左間周辺海域の魚類相. 国立科学博物館専報, 41: 351–387.
- 本田康介・瀬能 宏・和田英敏. 2024. 相模湾産魚類目録 (改訂). 神奈川県立博物館研究報告 (自然科学), 53: 127–218. [URL](#)
- 稲葉智樹. 2018. ウミテング科, p. 51. 本村浩之・萩原清司・瀬能 宏・中江雅典（編）奄美群島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島・横須賀市自然・人文博物館, 横須賀・神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原・国立科学博物館, つくば. [URL](#)
- 稲葉智樹. 2019. ウミテング科, p. 53. 本村浩之・萩原清司・瀬能 宏・中江雅典（編）奄美群島の魚類図鑑. 南日本新聞開発センター, 鹿児島.
- 伊東正英・小枝圭太・本村浩之. 2016. 九州初記録のウミテング科魚類ヤリテング *Pegasis volitans*. Nature of Kagoshima, 42: 113–117. [URL](#)
- Iwatsuki, Y., H. Nagino, F. Tanaka, H. Wada, K. Tanahara, M. Wada, H. Tanaka, K. Hidaka and S. Kimura. 2017. Annotated checklist of marine and freshwater fishes in the Hyuga Nada Area, southwestern Japan. Bulletin of the Graduate School of Bioresources, Mie University, 43: 27–55. [URL](#)
- Jeong, B. and H. Motomura. 2021. An annotated checklist of marine and freshwater fishes of five islands of Mishima in the Osumi Islands, Kagoshima, southern Japan, with 109 new records. Bulletin of the Kagoshima University Museum, 16: 1–116. [URL](#)
- 河野光久・土井啓行・堀 成夫. 2011. 山口県日本海産魚類目録. 山口県水産研究センター研究報告, 9: 29–64. [URL](#)
- 河野光久・土井啓行・堀 成夫・園山貴之・荻本啓介・國森拓也. 2015. 2010～2013年の山口県日本海域における海洋生物に関する特記的現象. 山口県水産研究センター研究報告, 12: 1–21. [URL](#)
- 木村清志. 2014. ウミテング科, pp. 510–511. 沖山宗雄（編）日本産稚魚図鑑. 第2版. 東海大学出版会, 秦野.
- Koeda, K., Y. Hibino, T. Yoshida, Y. Kimura, R. Miki, T. Kunishima, D. Sasaki, T. Furukawa, M. Sakurai, K. Eguchi, H. Suzuki, T. Inaba, T. Uejo, S. Tanaka, M. Fujisawa, H. Wada and T. Uchiyama. 2016. Annotated checklist of fishes of Yonaguni-jima island, the westernmost island in Japan. The Kagoshima University Museum, Kagoshima. vi + 120 pp. [URL](#)
- 三木涼平. 2019. ウミテング, p. 74. 村瀬敦宣・三木涼平・和田正昭・瀬能 宏（編）宮崎県の魚のまち 門川の魚図鑑. 宮崎大学農学部附属フィールド科学教育研究センター延岡フィールド, 延岡.
- 三木涼平. 2021. ウミテング, p. 98. 村瀬敦宣・緒方悠輝也・山崎裕太・三木涼平・和田正昭・瀬能 宏（編）新・門川の魚図鑑：ひむかの海の魚たち. 宮崎大学農学部附属フィールド科学教育研究センター延岡フィールド, 延岡.
- 三井翔太・瀬能 宏. 2020. 相模湾におけるテングノオトシゴの分布と河川感潮域からの初記録. 神奈川自然誌資料, 41: 39–44. [URL](#)
- Motomura, H. 2023. An annotated checklist of marine and freshwater fishes of Tanega-shima and Mage-shima islands in the Osumi Islands, Kagoshima, southern Japan, with 536 new records. Bulletin of the Kagoshima University Museum, 20: 1–250. [URL](#)
- Motomura, H. and S. Harazaki. 2017. Annotated checklist of marine and freshwater fishes of Yaku-shima island in the Osumi Islands, Kagoshima, southern Japan, with 129 new records. Bulletin of the Kagoshima University Museum, 9: 1–183. [URL](#)
- Motomura, H. and K. Uehara. 2020. An annotated checklist of marine and freshwater fishes of Okinoerabu Island in the Amami Islands, Kagoshima, southern Japan, with 361 new records. Bulletin of the Kagoshima University Museum, 12: 1–125. [URL](#)
- 村瀬敦宣・渋谷風雅・長友伸二郎・緒方悠輝也・大衛亮正・本村浩之・瀬能 宏. 2023. 水中写真に基づく宮崎県南部沿岸域の魚類相とその生物地理学的組成. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 33: 33–114. [URL](#)
- Nakae, M., H. Motomura, K. Hagiwara, H. Senou, K. Koeda, T. Yoshida, S. Tashiro, B. Jeong, H. Hata, Y. Fukui, K. Fujiwara, T. Yamakawa, M. Aizawa, G. Shinohara and K. Matsuura. 2018. An annotated checklist of fishes of Amami-oshima Island, the Ryukyu Islands, Japan. Memoirs of the National Museum of Nature and Science, Tokyo, 52: 205–361. [URL](#)
- 大河俊之・増井達洋・関 伸吾. 2014. 高知県の浅海砂浜域における小型底魚類の種組成と分布. 黒潮の資源海洋研究, 15: 95–104. [URL](#)
- Palsson, W. A. and T. W. Pietsch. 1989. Revision of the acanthopterygian fish family Pegasidae (order Gasterosteiformes). Indo-Pacific Fishes, 18: 1–38, pl. 1.
- 瀬能 宏. 2013. ウミテング科, pp. 608, 1906. 中坊徹次（編）日本産魚類検索 全種の同定. 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- 瀬能 宏. 2020. ウミテング. 自然科学のとびら, 26: 25. [URL](#)
- Senou, H., K. Matsuura and G. Shinohara. 2006. Checklist of fishes in the Sagami Sea with zoogeographical comments on shallow water fishes occurring along the coastline under the influence of the Kuroshio Current. Memoirs of the National Museum of Nature and Science, Tokyo, 41: 389–542.
- 田代郷国. 2022. ウミテング科, pp. 50–51. 岩坪洗樹・伊東正英・山田守彦・本村浩之（編）薩摩半島沿岸の魚類. 鹿児島水圏生物博物館, 枕崎・鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島.
- 吉郷英範. 2018. 広島県から記録されている海産魚類目録. 比和科学博物館研究報告, 59: 127–193, pls. 1–6.
- 吉野雄輔・瀬能 宏. 2008. 山溪ハンディ図鑑 13. 日本の海水魚. 山と溪谷社, 東京. 543 pp.
- 財団法人日本色彩研究所（監）. 1981. 色名小事典. 日本色研事業株式会社, 東京. 34 + 44 pp.